

ふくろ
和郷亭

南部遠野
和郷亭撰

中村俊定文庫

文庫 18

968



Handwritten text within a rectangular border, including a square symbol and cursive characters.



此三子先年南部史杖

紫雲子年入貨るや竹屋所 重厚

二節うりりるも降やう強き香 春海
むしあきふかからぬる力あが 昔三

宮古シマ琴ヶ屋更名

目も思ふや一材毎ふもたれ 北溪

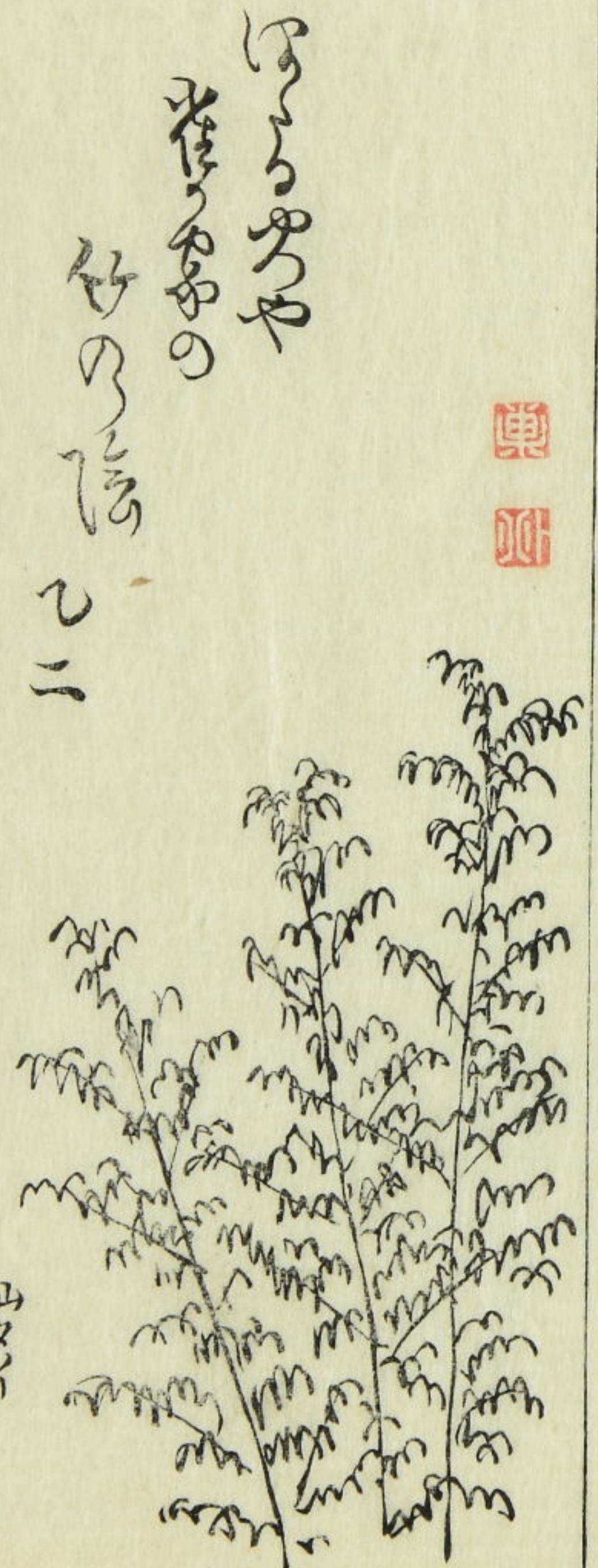
ふらふらあきふかからぬる力あが 方石

ユレハ気仙沼之音入ナリ

枯枝枝こけりもあきふかからぬる力あが 菅菴

此のまや新海の歌いあきふかからぬる力あが 一草

此夕ニサクニ人ナ呂ノ御器ヲ副テ旅ヨリ賤ル



ほららあや

あきふかの

むしあき

こ

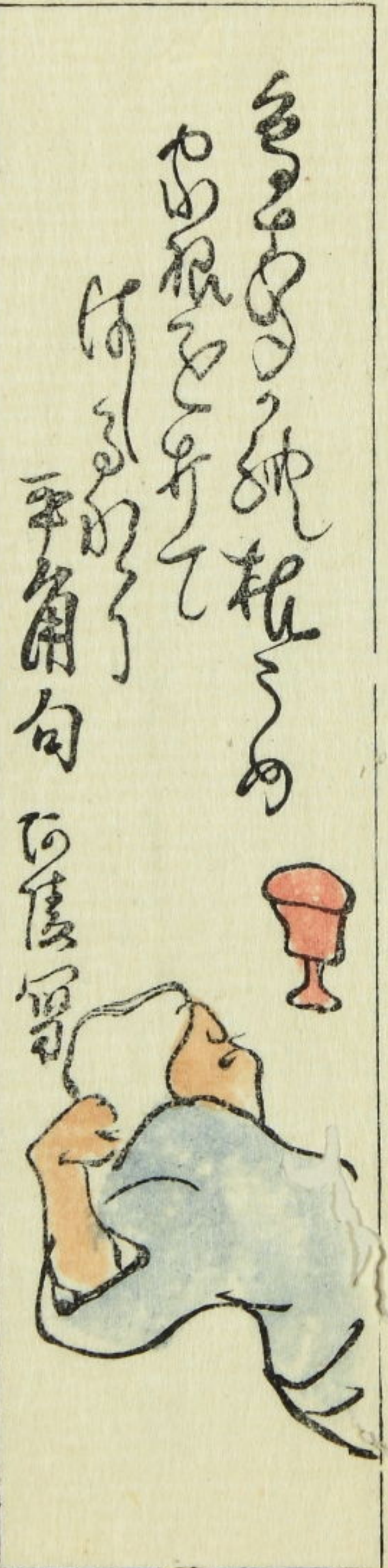
仙夕ノ

あきふかからぬる力あが 仙夕ノ 芳志

夏日漫興

モリヲカ

雲のふちを渡る鳥の影は
 夕洲
 空の青さを染める水の色
 春浦
 涼しい風のそよぐ音は
 澤一
 山々の緑を渡る月の光
 峯家
 静かなる夜の静けさは
 其黒
 心ゆくも静かなる夜の静けさは
 音水
 静かなる夜の静けさは
 其黒



静かなる夜の静けさは
 其黒

静かなる夜の静けさは
 其黒

旅行 酒の浦を渡る鳥の影は
 夕洲

静かなる夜の静けさは
 其黒

夕暮のしづかなる樹の影をまはして因

紙の清くも影のまはるるの源 穂光

秋アソビニ
副テ到未

ふらふらと花をよみし 大ハサマ 暮里

先づかきて 花をよみし 暮里

花をよみし 暮里

また花のよみし 暮里

秋のうた 暮里

花のよみし 暮里

はらばらと花をよみし 暮里

都短冊色紙二十一枚 外画讀二行寫之

四季

秋のあや打もくの友らうら 暮管

路はくも 暮のよみし 暮の風 暮郷

暮のよみし 暮の風 暮郷

朝のよみし 暮の風 暮郷

環来

月うきのあふふみきるる

梅郷

業持て井のよしの入の惟

成器

るやうに花のよきよきよき

風章

あふのきよとあふのよきよ

松里

秋のやうに音のよきよき

調鼓

あふのやうにあふのよきよ

及愚

あふのやうにあふのよきよ

^女よき

あふのやうにあふのよきよ

文体

あふのやうにあふのよきよ

怒貫

あふのやうにあふのよきよ

現柳

あふのやうにあふのよきよ

業持

あふのやうにあふのよきよ

八音

あふのやうにあふのよきよ

八出

あふのやうにあふのよきよ

東鯉

あふのやうにあふのよきよ

隈水

あふのやうにあふのよきよ

^親玉斗

枇杷の葉の影を流してはるる 梨園

舟の影を流してはるる 菖水

舟の影を流してはるる 梅中

舟の影を流してはるる 深富

舟の影を流してはるる 風量

舟の影を流してはるる 風帆

舟の影を流してはるる 桂路

舟の影を流してはるる 夢子

舟の影を流してはるる 八風

秋の影を流してはるる
舟の影を流してはるる
舟の影を流してはるる



七十五
寸未画

舟の影を流してはるる 舟の影を流してはるる
舟の影を流してはるる 舟の影を流してはるる
舟の影を流してはるる 舟の影を流してはるる

東都台山下
江川八左衛門

八風書



彫三

東都台山下

江川八左衛門

